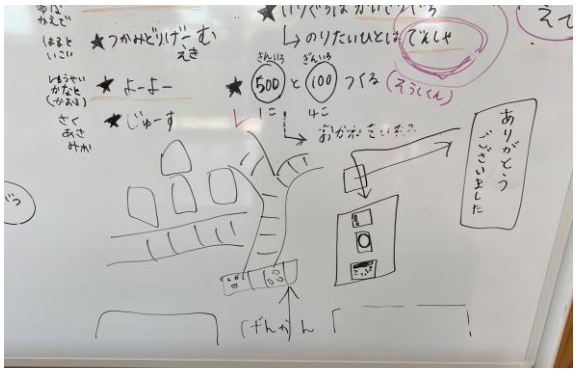
前回号で、子ども主体の行事について記述しました。今回号は、更に子どもたちの具体的な姿についてお知らせします。前回号で、２１世紀型モデルの園行事になるためには、子どもが主体的に関り、仲間と対話を深め、その中で子ども一人ひとりの学びが深くなることが大切であると書きました。今回の夏祭りの取り組みでは、サークルタイムと呼んでいる、子どもたちの話し合いの場を多く設定して、とことん話し合わせました。

子どもたちの発想は、保育者たちの想像をはるかに超えて、これまでにない夏祭りの計画ができ上りました。自分たちで話し合うことで、意見の葛藤はありますが、その分友達の良さや、意見のすばらしさに気づき、更に意見を出し合うことで、自分達オリジナルの計画が完成しました。また、意見を出す時も、自己主張だけでは分かってもらえない、相手に分かってもらうような話し方や工夫が必要であることも学びました。



〈大切にしたい考え方〉

〇子どもの主体性を高める幼児教育

〇興味関心を大きくする環境構成

〇生活の場としての園生活

ひまわり８

元気な子どもたちとともに

＜教育目標＞

元気で思いやりのある
ひまわりっ子

〈職員目標〉

〇チームワーク

〇主体性を育む保育

〇資質向上

保育者たちは、子どもたちの立てた計画ができるだけ実現できるように支援していく姿勢で見守りました。計画作成は、たいよう組が中心で行いましたが、４歳児、３歳児の子どもたちも、年長児の姿に憧れをもち、積極的に協力、参加できました。子どもたちの素晴らしさと、内に秘めた力の大きさを改めて感じました。保育者の想像を超えた「子ども主体のプロジェクト」はこのような、子ども達自身の話し合いの中から始まっていきました。

話し合いの中で出された、「やりたいこと」「やってみたいこと」は、「つかみ取りゲーム」「ヨーヨーすくい」「魚釣り」「輪投げ」「ジュース」「改札口」「電車」「お金」「お財布」などです。特に、改札口と電車づくりについては、実際の改札口を見たいということで、重富駅に見学に行きました。その時の経験を活かして、IC カードの工夫や、具体的な形を工夫して製作することができました。

本物を見たことで、発想が更に広がり、IC カードを使うことや会場全体に線路を作り、電車の代わりになる、段ボールの乗り物も工夫しました。その一つ一つが、話し合いの中から生まれています。絵で自分の思いを分かりやすく説明しながら話し合いを進めるなど、相手のことを考えながらの活動でした。